

災害発生時 初動 マニュアル（イメージ）

赤羽区

2024.4.14 確認

災害発生

緊急連絡基準

地震

深刻度レベル1：震度4（天井からの吊り下げ物が大きく揺れる）
深刻度レベル2：震度5弱（棚から物が落下する状況）

豪雨・暴風

深刻度レベル1：【予測】気象庁-早期注意情報が"中"以上
深刻度レベル2：気象庁及び県/町より"気象警報"が発表

火災

深刻度レベル1：
深刻度レベル2：

先ずは、命を守る行動

深刻度レベル1 以上 ⇒

区長・副区長は
情報の確認

招集を行う
必要あり

No

終了

深刻度レベル2 以上 ⇒

区長・副区長は
対策の検討

Yes

対策(警戒)
本部設置が
必要

No

区長・副区長は
経過の確認

終了

メンバー：区議会委員
(状況により 監査委員)

緊急連絡

対策(警戒)本部設置
*区民センター

初動活動

- 被害状況の情報収集
通報・巡回 等による関係情報収集
(道路、河川 / 水路、ライフライン、通信 他)
- 避難所開設
区民センター
- 被害拡大防止作業
東天竜水門閉鎖、水路の排水確保

町本部 消防団 の主範囲

応急段階へ
移行

応急対応活動

終了

Yes

No

早期注意情報(警報級の可能性)の[高]及び[中]の利活用のイメージ

	翌日まで	2日先から5日先まで
発表時刻・発表単位	天気予報に合わせて発表 毎日05時・11時・17時に、一次細分区域ごとに発表	週間天気予報に合わせて発表 毎日11時・17時に、府県予報区ごとに発表
[高]	対象区域内の いざれかの市町村で 警報発表中、又は、 警報を発表する ような現象発生の 可能性が高い状況。	翌日までの期間に早期注意情報（警報級の可能性）の[高]が発表されたときは、危険度が高まりつつあり、「警報に切り替える可能性が高い注意報」や「予告的な府県気象情報」等がすでに発表されているか、まもなく発表されることを表しています。命に危険が及ぶような警報級の現象が予想される詳細な時間帯を気象警報・注意報等で確認してください。
[中]	[高]ほど可能性が 高くはないが、 対象区域内の いざれかの市町村で 警報を発表する ような現象発生の 可能性がある状況。	翌日までの期間に早期注意情報（警報級の可能性）の[中]が発表されたときは、これをもって直ちに避難等の対応をとる必要はありませんが、「深夜などの警報発表も想定して心構えを一段高めておくようにしてください。

「翌日まで」の方が「2日先から5日先まで」よりも見逃しが少ない。

※ 大雨、高潮に関して、[高]又は[中]が予想されている場合は、災害への心構えを高める必要があることを示す警戒レベル1です。
(内閣府「避難情報に関するガイドライン」P27の内容に基づき整理)

↑
[高]の方が[中]よりも空振りが少ない。

気象等の特別警報・警報・注意報などの防災気象情報

気象庁は、大雨や暴風などによって発生する災害の防止・軽減のため、気象警報・注意報や早期注意情報（警報級の可能性）、気象情報などの防災気象情報を発表しています。これらの情報は防災関係機関の活動や住民の安全確保行動の判断を支援するため、災害に結びつくような激しい現象が予想される数日前から早期注意情報（警報級の可能性）や「気象情報」を発表し、その後の危険度の高まりに応じて注意報、警報、特別警報を段階的に発表しています。なお、これらの情報の内容や発表のタイミングについては、常に市町村、都道府県、国の機関、報道関係等の防災機関との間で意見交換を行い、効果的な防災活動の支援になるよう努めています。

気象庁では、対象となる現象や災害の内容によって以下のように6種類の特別警報、7種類の警報、16種類の注意報、5種類の早期注意情報（警報級の可能性）を発表しています。詳しくは「気象警報・注意報の種類」や「早期注意情報（警報級の可能性）」をご覧ください。

特別警報	大雨（土砂災害、浸水害）、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮
警報	大雨（土砂災害、浸水害）、洪水、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮
注意報	大雨、洪水、強風、風雪、大雪、波浪、高潮、雷、融雪、濃霧、乾燥、なだれ、低温、霜、着氷、着雪
早期注意情報（警報級の可能性）	大雨、暴風（暴風雪）、大雪、波浪、高潮

土砂災害・洪水・高潮に関しては、以下のとおり警戒レベルと対応しています。それとの情報を参考にとるべき行動は以下のとおりです。

情報	とるべき行動	警戒レベル ^{※3}
大雨特別警報	地元の自治体が警戒レベル5緊急安全確保を発令する判断材料となる情報です。災害が発生又は切迫していることを示す警戒レベル5に相当します。 何らかの災害がすでに発生している可能性が極めて高い状況となっています。命の危険が迫っているため直ちに身の安全を確保してください。	警戒レベル5相当
土砂災害警戒情報 高潮特別警報 高潮警報	地元の自治体が警戒レベル4避難指示を発令する目安となる情報です。危険な場所からの避難が必要とされる警戒レベル4に相当します。 災害が想定されている区域等では、 自治体からの避難指示の発令に留意するとともに、避難指示が発令されていない場合もキキクル（危険度分布）等を参考に自ら避難の判断をしてください。	警戒レベル4相当
大雨警報（土砂災害） ^{※1} 洪水警報 高潮注意報（警報に切り替える可能性が高い旨に言及されているもの ^{※2} ）	地元の自治体が警戒レベル3高齢者等避難を発令する目安となる情報です。高齢者等は危険な場所からの避難が必要とされる警戒レベル3に相当します。 災害が想定されている区域等では、 自治体からの高齢者等避難の発令に留意するとともに、高齢者以外の方もキキクル（危険度分布）等を用いて避難の準備をしたり自ら避難の判断をしたりしてください。	警戒レベル3相当
大雨注意報 洪水注意報 高潮注意報（警報に切り替える可能性に言及されていないもの ^{※2} ）	避難行動の確認が必要とされる警戒レベル2です。ハザードマップ等により、災害が想定されている区域や避難先、避難経路を確認してください。	警戒レベル2
早期注意情報（警報級の可能性） 注：大雨、高潮に関して、[高]又は[中]が予想されている場合	災害への心構えを高める必要があることを示す警戒レベル1です。 最新の防災気象情報等に留意するなど、災害への心構えを高めてください。	警戒レベル1

※1 夜間～早朝に大雨警報（土砂災害）に切り替える可能性が高い注意報は、高齢者等は危険な場所からの避難が必要とされる警戒レベル3に相当します

※2 警報に切り替える可能性については、市町村ごとの警報・注意報のページで確認できます。

※3 警戒レベルについては内閣府ホームページをご覧ください。

「早期注意情報（警報級の可能性）」の都道府県・市町村における利活用方法の具体例

平成28年度出水期に、各地の気象台から自治体等関係機関に対して「警報級の可能性」を試験的に提供させていただきました。都道府県・市町村からは、次のような場面で実際に役立ったという御意見をいただいています。

「警報級の可能性」の都道府県・市町村における利活用方法の具体例

週末に警報級の可能性[中]となるケース

種別	1日	2日	3日	4日	5日	6日
	明け方まで	朝～夜遅く				
大雨	—	—	[中]	[中]	—	—
大雪	—	—	—	—	—	—
暴風(暴風雪)	—	—	—	—	—	—
波浪	—	—	—	—	—	—



- 遠出を控えるなど、職員が心構えを持つことができた。
- 警報が発表される可能性が高くはないが、警報が発表されるかもしれない、という危機意識をもつことができた。
- 警報発表時に円滑な対応ができるよう、当直の職員に情報提供をした。
- 休日でもスムーズに参集できるよう、担当職員の所在を確認した。

翌日早朝にかけて警報級の可能性[中]となるケース

種別	1日	2日	3日	4日	5日	6日
	明け方まで	朝～夜遅く				
大雨	[中]	—	—	—	—	—
大雪	—	—	—	—	—	—
暴風(暴風雪)	—	—	—	—	—	—
波浪	—	—	—	—	—	—



- 担当職員に対し、退庁後の自宅待機を促したため、警報発表時に体制を迅速に整えることができた。
- 勤務時間内に庁内放送を実施し、夜間でもすぐに職員が参集できるようにした。
- 気象情報を収集していたところで警報が発表されたので、円滑に対応できた。
- 夜間の登庁方法を考えておく等、警報発表に備えることができた。

次の日に警報級の可能性[高]となるケース

種別	1日	2日	3日	4日	5日	6日
	明け方まで	朝～夜遅く				
大雨	—	—	[高]	—	—	—
大雪	—	—	—	—	—	—
暴風(暴風雪)	—	—	[高]	—	—	—
波浪	—	—	[高]	—	—	—

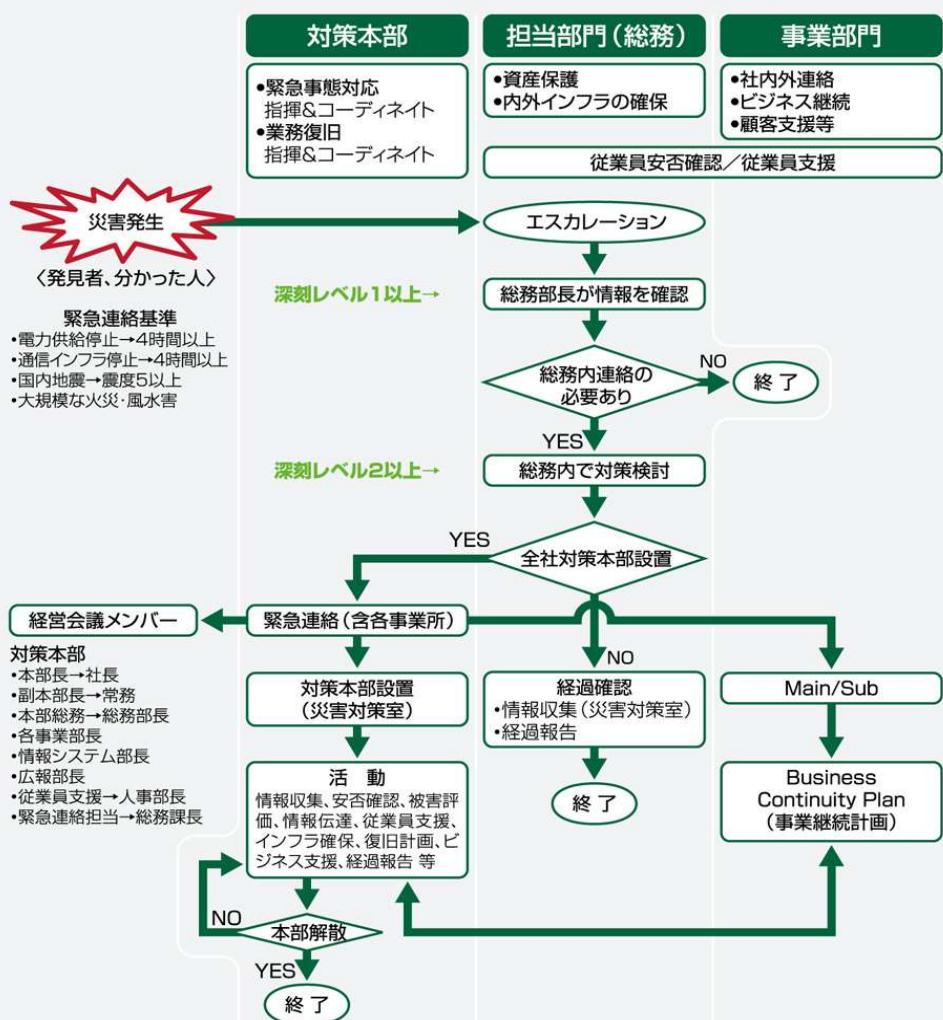


- 避難準備・高齢者等避難開始を発令するタイミングの日安になった。
- 警報発表前に避難場所開設の準備を行うことができた。
- 台風接近時の離島への職員派遣の判断の参考になった。
- 台風接近時に、防災行政無線や防災メールで特に注意すべき時間帯を住民に周知する参考になった。
- 資機材の事前準備や確認のきっかけになった。
- 行事、イベント中止の判断の参考になった。
- 小中学校の休校や公共施設の閉鎖などの判断の参考になった。

[高]のときは、気象警報等で詳細な時間帯などを確認する。



●図表4:災害復旧フローチャート●



震度とゆれの状況

